

# 大学院保健科学教育部



大学院保健科学教育部は、2006（平成18）年4月に博士前期（修士）課程、2008（平成20）年4月に博士後期課程が設置された。博士前期課程は、看護学領域、医用情報科学領域及び医用検査学領域の3領域、博士後期課程は、生涯健康支援学領域、医用情報科学領域及び医用検査学領域の3領域からなる。

看護学領域では、医療機関での高度な専門看護の実践者や地域の人々の健康支援者、教育・研究者を育成することを目指し、博士前期課程には、基盤形成支援看護学分野、健康生活支援看護学分野、ウイメンズヘルス・助産学分野、保健医療学分野の4分野を、博士後期課程には、生涯健康支援看護学分野と生涯健康支援医療学分野の2分野を設けている。

医用情報科学領域では、高度な画像診断・治療

技術を修得し、技術革新に対応できる人材の養成を目指し、医用情報理工学分野と放射線科学分野の2分野を設けている。

医用検査学領域では、先端医療技術・支援学分野を設けている。

大学院保健科学教育部に大学院が整備されて11年となるが、毎年定員を超える多くの学生が入学を希望している。博士前期課程では、さらに研究マインドのある高度医療専門職者の養成を促進していく。

2019（令和元）年5月には、博士後期課程の生涯健康支援学領域に、海外の大学との博士（保健学、PhD in Nursing）のダブルディグリープログラムを開設した。これからも卒業研究—博士前期—博士後期課程と一貫した研究体制を整え、研究業績をあげるとともに、世界的に活躍できる次世代の優秀な人材を輩出していきたい。

